



判事深谷長之助外二名依願免本官ノ件
右謹テ奏ス

大正二年三月二十六日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛公

内

閣



裏面白紙

文部省
第一三三號

大正二年三月廿五日

三月廿六日裁可
三月廿七日

内閣書記官

内閣書記官

内閣書記官

内閣總理大臣

内閣書記官長

判事 深谷長之助

東京外國語學校教授 伊東平藏

福岡縣女子師範學校長 奥田教信

依願免本官

司判類第三〇九號

依願免本官
判事退官之儀
判事深谷長之助
差出候
付本官ヲ被

免別紙之通辭表

大正二年三月廿五日

司法大臣

松田正久



司法省

退官願

小官儀

病氣、為ノ職務ニ堪、難ク、美、本官
御差免被下度別紙醫師診斷
書相添、此段奉願、美、也

大正二年三月十日

岩國區裁判所

判事 深谷長之助

司法大臣 松田正久 殿

裏面白紙

診断書

深谷長之助

一病名 痔核

一原因 遺傳

一經過 拾年前ノ發病ニシテ治療ヲ怠リシ為ニ重患ニ陥リシモノ

一現症 入院加療ノ必要ヲ認ム

一豫後 甚不良

右症状ニヨリ到底職務ニ堪ヘザルモノト診断ス

山口縣都濃郡福川町四百九拾八番地

大正二年三月八日 醫師 尾崎壽人



東京外國語學校教授伊東平藏

依願免本官

右謹テ奏ス

大正二年三月二十四日

文部大臣法學博士奥田義人



文
部
省

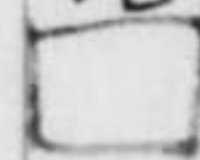
辞表

新 儀

近來持病ノ慢性腎臟炎症相惹、劇務、
不堪任間恐懼之至、候得共本官御免被仰
付度医師診断書相添、此段奉願候也

大正貳年冬月四日

東京外國語學校教授伊東平花



文部大臣博士奥田義人殿

裏面白紙

診断書

伊東平花

安政三年十月生

一病名慢性腎臓炎

右者明治廿二年百頃伊右利至國ニ於テ本
病ニ罹リ全身浮腫腹部膨滿尿中蛋白
ヲ交工漸次病勢ヲ増進スルヲ以テ内朝帝國大
學ニ入院治療ヲ加ヘ且屢寒ノ位ニ
ニ轉療スル等殆ト四年間即チ明治廿六年
六月頃ニ至リ左ク治療セリト雖モ時季ノ变换

ノ後ニ尿管中蛋白ヲ現出スルヲ以テ之ニ昨年九月以
 ヲリ前症再發尿中蛋白ヲ交工營養減損全身
 疲倦ヲ覺工時ニ腹滿下肢浮腫ヲ来ス下リ
 現時ニ至リ病勢倍々増進特ニ腰痛併發起
 ニ困難ヲ感スル才途底就務ニ堪工難ク更ニ宜
 氣新鮮ナル由故ノ地ニ轉シ安静療養ヲ加フ
 ニ非レハ頗ル難治ノ疾病ト思考ス

右及診斷 然如

大正貳年冬月四日

神田区五軒町三番地 東云市之
 練成小學校 校長 齋藤

岡本健兒



福岡縣女子師範學校長奧田教佑

依願免本官

右謹テ奏ス

大正二年三月二十四日

文部大臣法學博士奧田義人



文部省

文 部 省

辭職願

小官儀

病氣、為職務、堪兼任間、退官御
聽許、相成、度、區、證、相、添、此、段、相、給、候
也

大正二年三月七日

福岡女子師範學校長 真田 敬傳 ○

文部大臣 法学博士 真田 義人 殿

裏面白紙

醫証

福岡縣早良郡鳥飼村大字鳥飼六百七拾八番地新潟縣士族

奥田教信

五拾九年六月

一體質 強壯

一病名 脳神経衰弱

一原因 精神過勞中

一病候 常ニ頭痛頭重ニ悞ニ時々心悸亢進ヲ起シ記憶力漸次減退ニ少シク錯雜ナリ

事ニ當ラントスレハ勿心ヲ劇シキ頭痛ヲ起
シ強ト事務ヲ執ル能ハス

一 経過 二三月以來

一 療法 專ラ精神ノ安養ト滋養物ヲ攝取トシ
ト藥劑トシラハ真素製劑等ヲ與フ

一 豫後 暫時身ヲ閑散ノ地ニ置キ專ラ精神ノ安養
ヲ計ヘニヤニサレハ容易ク治癒ニ就カサルモノト診定ス
右ニ通リ相違無之候也

大正貳年參月七日 福岡縣福岡市本町七拾五番地

醫師 吉富四郎

裏面白紙

司法省

321

司法省職壹第三。九號上奏 壹件
右執奏有之度候也

大正二年三月廿五日

司法大臣松田正久



内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

文 部 省

藏甲第二九七號

伊東平藏依願免官ノ件

奥田教信同上

右上奏書及進達候也

大正二年三月二十四日

文部大臣法學博士奥田義人



内閣總理大臣伯爵山本権兵衛殿

奥田教信ハ三月二十八日
若令ヲ乞フ

322

文 部 省

藏甲第二九七號

伊東平藏依負之旨、牛

奥田教信曰

三月二十四日、依奥田
教信之旨、牛

右上奏書及進達候也

大正二年三月二十四日

文部大臣法學博士奥田義人



内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

裏面白紙

322